

研究活動

1 研究活動概要

本学では、教育研究上の特長として「デザイン学部と看護学部の連携」ならびに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」ならびに「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」を掲げている。平成19年度は、この特長ならびに目的を念頭に置き、デザイン学部教員28名、看護学部教員37名の合計65名が、研究活動を行った。

「デザイン学部と看護学部の連携」の観点からは、デザイン学部教員と看護学部教員が協働する「積雪・寒冷地区特性に見る高齢者の生活史と生活行動」「小児・母性看護学で活用できる感性教材モデルの開発」「病院施設におけるアプローチ空間の癒し効果に関する研究」「地域にある動植物との触れ合いを活かす環境共生コミュニティの創出」などを通じて、健康、医療・福祉等の幅広い分野で、デザインと看護の共同研究を推進した。

「幅広いネットワーク」の観点からは、共同研究ならびに受託研究等において公設試験場、北海道ティー・エル・オー(株)を含む民間企業、医療法人等各界との連携を深め、地域に求められる課題に対応した研究を推進した。行政、地元企業や他大学等と連携を促進した共同研究・受託研究としては、「滝野すずらん丘陵公園ランドスケープデザイン」(滝野管理センター)、「シーニックバイウェイ制度を活用したまちづくりの研究」(札幌市南区)など都市機能・都市景観の向上に係る研究(5件)、「生態展示サービス施設向け顧客参加型コミュニケーションシステムの開発」(北海道立工業試験場、室蘭工業大学、札幌医科大学、(株)データクラフト)などデザインやIT関連等の産業振興等に関する研究(6件)を行った。

「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」の観点からは、「看護学教育における模擬患者(SP: Simulated Patient)養成プログラムの開発」を通じて、よりよい看護職育成のための研究に取り組んでいるほか、看護職育成に不可欠な看護の基礎的な研究においては「在宅看護サービスの多様化に関する基礎的研究」他11件、地域看護の充実に係る研究「精神障害者への地域生活支援に関する研究」他13件、市民の健康の保持増進に寄与する研究「ヘルスプロモーションと環境整備」他6件を行った。

「まちづくり全体により大きな価値を生み出す『知と創造の拠点』の形成」の観点からは、「『創造都市さっぽろ』のブランド構築に関する研究」を学内の共同研究として採択し、その研究を促進した。

このほか、都市再生に関する研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地場産品のデザイン研究、産業や芸術・文化の振興に関する研究、さらに、道内の他の自治体やその地域を対象とし、まちづくりに医療の側面から貢献する地域看護に関する研究に取り組んだ。